



厳冬期の奥秋保

凍てつく日陰磐司・氷の滝

地球温暖化が進む昨今、二口峡谷でも氷瀑を拝むことは簡単ではない。遇えるのは真冬の1月か2月の始め、厳冬期のほんの一時だ。



東西に細長い秋保。冬のとある日、東端の秋保温泉から西に向かう。境野、長袋と少しずつ嵩の増えてきた雪は、二口に着くころにはすべてを覆いつくしている。

奥秋保では、北西からの強い風と雪の寒吹きに見舞われた翌朝、澄んだ青空の下、穢れない雪が谷を包み込んでいる。無垢な白い世界は、自分の足で一步を踏み出していいのかさえ躊躇させる佇まいだ。一方、秋保温泉界限は、粉砂糖をふりかけたような、今にも消え入りそうな儚い雪をまとったモノトーンの世界が広がっている。



西へ東へ、厳しさと優しさのコントラストが際立つ秋保の冬景色を訪ねてみよう。



秋保

秋保・冬景色 — 凍^{しば}れる白と黒の世界 —

いってみっぺ
秋保

秋保・冬景色

企画・発行：秋保地域資源活用委員会・仙台市
連絡先：秋保総合支所まちづくり推進課 (022-399-2111)
秋保市民センター (022-399-2316)

暑かった夏がまるで夢うつつ
めっきり短くなった秋が過ぎて
びょーびょーと吹く風に
雪の舞う冬が訪れる
秋保は冬も魅せてくれる



秋保・冬景色 — 凍れる白と黒の世界 —

四季折々にいろいろな表情を見せてくれる秋保。冬ともなると、一寸先も見えない地吹雪の日もあれば、粉雪舞い散る優しく儂い一日もある。

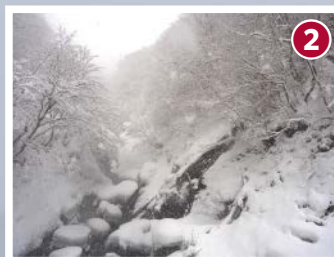
紅葉織りなす秋の景色が特に素晴らしいから「秋保」と云われた、という説もあるが、凍れて凜とした冬の秋保もなかなかのものだ。

【背景は厳冬期の大磐司】①

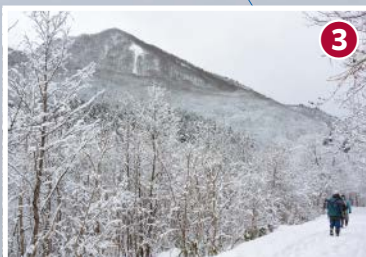
※●数字は撮影場所を示しています。



加沢地区上空から秋保の主峰大東岳を望む。



三方倉山や二口林道沿いのブナ林は、深閑としてまるで墨絵の景色だ。二口沢にしんと雪が降り積む。



雪の華をまとった梢。まさに清閑の地。



雪の日の少しの晴れ間が、鷹ノ巣山を幻想的に浮かび上がらせた。



野尻の朝。除雪の雪煙が舞う。何だか良い。



氷の衣をまとう秋保大滝。数年に一度しか見られない姿だ。



雪のめがね橋（小滝沢橋）が朝日を浴びる。



銀白の奇勝白岩の白銀の装い。



長袋の夜明け。ひと際鮮やかな冬の朝焼け。



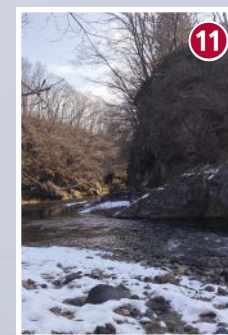
強い北風が雪原となった田んぼを撫でていく。



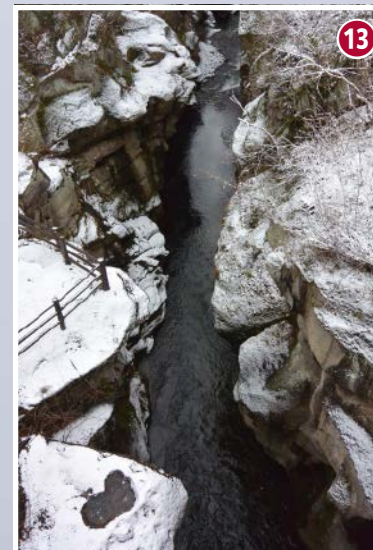
長袋耕土の先に軽登山で人気の戸神山を望む。



凍てつく朝には枯草も霜の花を咲かせる。



いにしえ人の行き来した、源兵衛原～橋本間の川越え。雪の旧街道で往時をしのぶ。



西の端が二口なら、東の端は磊々峡。うっすらと被った雪が、巨岩怪石の峡谷を際立たせる。覗橋ハートもクッキリ。



天守閣自然公園。正月の冴え渡る青空に、雪の庭園が映える。



工芸の里。冬の静寂な佇まいの中で、工人の技にさらに磨きがかかっていく。



橋上からの修験の山、大倉山の山容。



大倉山と楯山から白い“息吹き”が見える。



境野羽山橋から名取川の上流を見渡せば、かつて秋保氏が城館を構えた楯山が望める。

雪道は、人も車も滑りやすいので、移動の際は十分気をつけましょう。なお、冬期間は、車の進入が禁止されている区間がありますので、事前に確認しましょう。